

# 「単孔式経膈腹腔鏡補助下虫垂切除術における合併症の検討」 について

## 【研究概要及び利用目的】

近年小児の虫垂炎に対する手術は腹腔鏡を用いた方法が主流となっており、当科でも単孔式経膈腹腔鏡補助下虫垂切除術(以下：TULAA)を標準術式としています。TULAAは低侵襲で整容性にも優れていますが、術後合併症について検討された報告は多くありません。

当科で近年多数施行されている単孔式経膈腹腔鏡補助下虫垂切除術の合併症を調査することで、手術の安全性や問題点を明らかにします。

## 【研究期間】

病院長承認日～2024年3月31日

## 【研究対象期間】

2019年1月～2022年9月30日

## 【取り扱うデータおよび試料・情報の項目】

研究対象期間に当科において単孔式経膈腹腔鏡補助下虫垂切除術を施行した方の下記データを診療録より収集します。

- ①基本情報：生年月日、性別、入院期間
- ②疾患情報：虫垂の炎症の程度、手術時間、術後の合併症の種類・程度
- ③検査項目：血液検査データ、画像データ、診療録

## 【個人情報保護の方法】

患者さんの個人データについて、研究実施にかかる既存情報を取り扱う際は、患者さんの個人情報とは無関係の番号を付して研究対象者識別番号リストを作成し、連結可能匿名化を行い秘密保護に十分配慮いたします。研究対象者識別番号リストは研究に参加している研究責任者が各医療機関において厳格に管理し研究の結果を公表す際は患者さんを特定できる情報を含まないように留意します。

研究の目的以外に研究で得られた患者さんのデータは使用しません。

## 【データおよび試料提供による利益・不利益】

利益：通常診療の情報を用いており、データをご提供いただいた患者さんの個人には特に利益になるようなことはありません。

不利益：カルテからのデータのみ利用するため特にありません。

【登録終了後のデータおよび試料の取り扱いについて】

この研究で取得した患者さんの治療に関する情報は研究発表 5 年後に患者さんを識別する情報を復元不可能な状態にして破棄します。

【研究成果の公表について】

研究成果は学術目的のための論文や学会などで発表されることがありますが、その際も個人を特定する情報は公表いたしません。

【研究へのデータ使用の取りやめについて】

いつでも可能です。患者さんのデータを用いたくない場合には下記問い合わせ窓口までご連絡ください。取りやめの希望を受けた場合、それ以降は患者さんのデータは本研究に用いることはありません。しかし同意を取り消した時点ですでに研究成果が論文などで公表されていたような場合には廃棄はできません。

【情報の提供を行う機関の名称及びその長の氏名】

加古川中央市民病院 院長 大西 祥男

【問い合わせ窓口】

この研究の問い合わせだけでなく、患者さんのデータが本研究に用いられているかどうかお知りになりたい場合や、患者さんのデータの使用を望まれない場合など、この研究に関することはどうぞ下記窓口にお問い合わせください。

加古川中央市民病院 小児外科

研究責任者名：中尾 真

連絡先：079-451-5500